

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2025.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンタ）

皆さんこんにちは。

e-learning教材「学部4回生・大学院生のための 日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。

この教材は、人文・社会科学分野の学部4回生・大学院博士前期課程1年生の方を対象にした内容となっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



2

「卒論・研究きちんとスタート！」シリーズは2つの教材で構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を入手する方法を学びます。

2つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献の書誌情報をもとに、今度は論文の本文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください

本講習会の目標

学習目標1：

先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できる

学習目標2：

「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：

文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

3

この教材の学習目標は3つあります。

「前置きは良いから、とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてください」と思われるかもしれませんが、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう恐れがあります。この教材では、順を追って説明をしていきますので、全体像を理解したうえで、効率的な調査方法を学ぶことができます。

本講習会の構成

1. 先行研究調査とは何か
 2. 「芋づる式」による先行研究調査
 3. 文献データベースについて（概要）
 4. 文献データベースによる日本語図書 of 先行研究調査
 5. 文献データベースによる日本語論文 of 先行研究調査
－CiNii Researchを事例に
- 補遺. シソーラスを備えたデータベース

この教材は5つの構成になっています。
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

1. 先行研究調査とは何か



では、第1章「先行研究調査とは何か」を始めます。

先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜなら、研究は基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから

6

「先行研究調査」とは、自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することです。研究の最初に踏むべき手順と言えます。

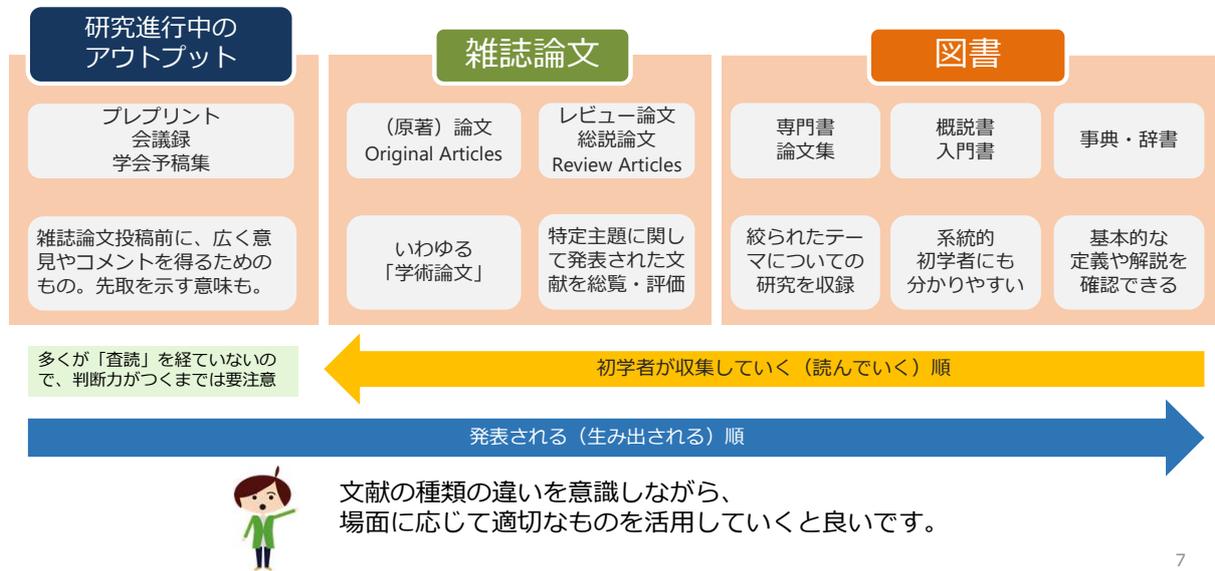
皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

それは、研究は主に、雑誌論文や学術書などの「文献」の形で発表されるためです。

こうした文献を「適切に」集めて読むことが、先行研究調査の基本的な手段となります。

この教材を通じて、文献を「適切に」集めることについて理解することができます。

研究の流れと学術文献の関係



一口に「文献」といってもさまざまな種類があります。主なものをスライドの図にまとめました。

大きくくりとして右端の図書、それから中央の雑誌論文があります。ただし、図書に分類される論文集と、雑誌論文に分類されるレビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また、左端の研究進行中のアウトプットの図の中のプレプリントや会議録などは、研究分野によって学術文献として流通することもあります。

研究は、まず論文として生み出されたあと、別の研究者によって引用され、議論されます。時間がたつほど議論が深まっていき、共通の認識となり、図書としてまとめられることが多いです。

さて、先行研究調査というと、まず論文を探して読む、というイメージがないでしょうか？

しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという段階では、系統的にまとまった知識が得られる「図書」、具体的には事典や辞書、概説書や入門書などから読んで理解を深めていくのがよいでしょう。

つまり、研究成果が生み出される順と、初学者が読んでいく順は逆になります。こういった事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まります。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）

研究史を把握する

調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で
定義や解説、研究史を理解する

↓

専門書や論文で
研究における実際の活用事例を知る

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる

⇒研究者としての意義にもつながる

8

先行研究調査には「学習者」と「研究者」の2つの意義があります。

学習者としては、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかみ、分野の認識や専門用語、研究史、調査・分析手段を学べます。

最初に事典や概説書で基本を理解したうえで、専門書や論文で実際の研究方法を学ぶと効果的です。

さらに、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。このことは、自分の研究テーマを設定して絞っていくための大きな手掛かりとなり、また、この次に説明する研究者としての意義にもつながっていくといえます。研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておく、研究テーマ設定の助けにもなるでしょう。

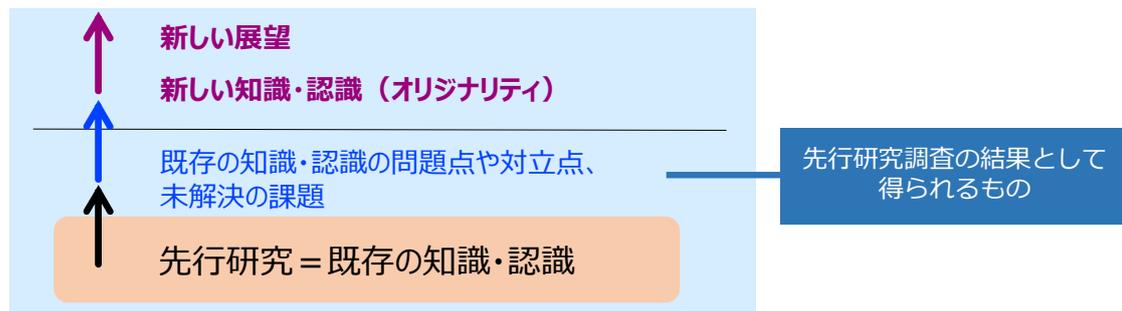
先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すため

研究 = 既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



9

「研究者」として先行研究調査をする最大の意義は、自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すことにあります。

研究とは、既存の知識に新しい知見を加える営みです。その新規性を判断するには、関連する先行研究を広く調べる必要があります。求められる「新しさ」の水準は、研究分野や学術的な段階によって異なります。たとえば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なりますので、指導教員の助言を受けながら進めることが重要です。論文では、先行研究を踏まえたうえで、自身の研究の意義を明確に示すことが求められます。

このように、先行研究調査は学習とともに、研究には欠かせないプロセスといえます。

2つのアプローチ

参考文献をたどる[芋づる式] : 2章

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

文献データベースによる検索 : 3~5章

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

10

ここからは、先行研究調査の2つのアプローチを紹介していきます。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては、理解を広げる有益な方法ですが、直接参照されていない関連文献を見落とす可能性がある点には注意が必要です。

2つ目は、文献データベースによる検索です。「文献探索」と聞いてまず思い浮かべるのはこちらだと思います。メリットは、多くの文献を発見できること、一方、デメリットとして使い方がよくないと、見逃しが多く発生してしまう可能性があるということです。

人文社会科学系の日本語文献データベースは、検索機能があまり充実していないものが多いため、使い方を工夫しないと、うまく活用できないことがあります。本日の後半で、このようなデメリットを回避できるよう、文献データベース検索のコツを紹介します。